

第 1 回経営顧問会議議事概要（案）

1. 日 時 平成 23 年 2 月 14 日（月） 15：00～17：00
2. 場 所 日本原子力研究開発機構 東京事務所 第 1 会議室
3. 出席者
 - （議長） 吉川議長
 - （委員） 石田委員、川本委員、橘川委員、清水委員、住田委員、柘植委員、野上委員、向殿委員（欠席：内藤委員、細川委員）
 - （機構） 鈴木理事長、戸谷理事、片山理事、伊藤理事、岡田理事、三代理事、横溝理事、重本執行役、牛嶋監事、山根監事

4. 議 題

- (1) 開会挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 議長挨拶
- (4) 役員紹介
- (5) 原子力機構の概要と経営の課題
- (6) 「もんじゅ」40%出力プラント確認試験に向けて
- (7) 意見交換
- (8) その他
- (9) 閉会挨拶

5. 配付資料

- 1-1 経営顧問会議規程
- 1-2 経営顧問会議委員
- 1-3 原子力機構の概要と経営の課題
- 1-4 「もんじゅ」40%出力プラント確認試験に向けて

6. 議事概要

(原子力機構の概要と経営の課題、「もんじゅ」40%出力プラント確認試験に向けてについて)

- 過去の事故の例について、原子力の専門家から見た安全の度合、危険のレベルの評価は為されているか。
- 一般の人に対するリスクコミュニケーションについて、経営の課題の中での位置づけが弱いと史料。
- もんじゅに関する産官学との連携、他の国内関係機関との連携を従来以上に期待。
- 国際社会における日本の人材面でのプレゼンスが重要、より幅広く人材育成に取り組むべき。
- 国際協力という観点から、J-PARC は外国人の利用が多いとのことだが、他の研究施設の外国人のアクセスはどうか。
- 機構の研究施設への外国人の受け入れにあたって、セキュリティ上の問題がないことをどのように確認しているのか。
- 地元で電気を供給している電力は地元の方々がお客だが、そうでない機構はどのようにコンタクトを取るか工夫が必要。建設から何十年も経つと、原子力が地元理解というより文化になってくるのではないか。「もんじゅ」があることが敦賀を世界にアピールするコアになる、そこに敦賀らしさを出せるのではないか。「もんじゅ」そのものを敦賀の文化にという発想が必要。
- 優れた稼働率をあげているプラントの良い例がある。もんじゅについては、法令報告未満のトラブルも含め積極的な情報発信をすることが地元との信頼醸成を生み、施設の稼働率を上げることに繋がる。
- もんじゅについては、人員減の中で人員構成を見ると博士研究員が減り、任期付きが増えている。年齢構成も上がっている。人事の停滞感、モラルの低下があるとすれば看過出来ない問題。
- もんじゅについては、何か起きた場合には、きちっと原因を究明し、その対応策について透明性を持って説明責任を果たしていくべき。

- もんじゅのグリッパの事故については、技術的なものか、人為的なミスなのかも含め、責任の所在を明確にすべき。
- 博士課程研究員、任期付研究員の人材育成について、原子力機構がキャリアパスに責任を持ち、それを「見える化」して欲しい。
- 旧原研と動燃が一緒になり、対象とする科学技術の分野でも、認識科学から設計科学まで幅広くなったが、評価基準が明確になっているのか。
- 「もんじゅ」管理体制の強化について、人材と組織能力の強化、人材育成強化の視点でのマネジメントが見えていない。この視点を入れて欲しい。
- 科学は専門性が高いので素人には分からない。プロセスがどのように決まっているかを示す事が国民の理解にとって重要。専門家の中でチェックする体制にも気遣うべき。
- 未来に責任を持つ中堅あるいは若い人達が、前面に出るような体制にできないのか。
- PDCA サイクルで特に大事なのはチェックとアクションであり、自己矯正能力を有することが重要。現場とのやりとりがしっかりなされているのか見えない。
- どういう組織でありたいか、なりたいか、どうして（組織が）存在しているかを組織の内外に示しているか。自信と誇りを持って働ける職場にすることがマネジメントの責任。
- 原子力のトラブルは、例えば電気屋が設計したものが機械屋から見ると問題があったというようなことがある。多くの目でチェックする体制が重要。
- ガラパゴス化かどうかはともかく、原子力関係者は、原子力という巨大技術に対して柔軟な対応ができにくくなっているように思われる。ぜひ、柔軟性を持っていただきたい。
- 選択と集中をしながらも幅広い知見を統合することを心がけ、原子力でどんな問題が起きても対応できる組織であるべき。そうでなければミッションを完遂できない。
- 科学技術の進歩には、Convergence Technology (OECD) (分野に拘らない、合体した技術) が必要。原子力はその代表的な巨大な存在。閉鎖的印象の除去のために、様々な分野の人を巻き込むことが必要ではないか。原子力

を我が国の基本的なイノベーションと位置づけなくてはいけない。前向きで、受身で無い、攻撃的な機構になっていただきたい。

以 上